

病院選び の前に 必ず読む本

知らないと損する病院探し
助かる人ほど病院はデータで決める

塩飽哲生 Tetsuo Shiwaku



家族が入院することになった――。

まさか自分に、そんなことが起きるとは。

これまで雑誌やテレビで、突然の家族の入院で病院選びに悩み、戸惑った人の体験談を見ても

「大変そうだな」と思いながらも、どこか他人事だった。

いざ、自分が家族のための病院選びを迫られると

何の情報を見て、どんな基準で病院を選べばいいのか
何も分からないし、誰も教えてはくれない。

『名医』がいると評判の病院は、入院できるまで数カ月待ち。

おまけに、いい評判と良くない評判が半分ずつだった。

いったい何を信じればいいのだろう。

Prologue

「病院選びの悩み」と

「正しい病院選び」

医療も情報も整っているはずの21世紀のニッポンで

これほど、自分と家族がほんとうに納得でき安心できる
病院選びが大変だったとは――。

.....

みなさんも病院選びで、こんなことが気になった経験はありませんか？

手術を勧められたが、本当にその病院で手術したほうがいいのか……
病院の評判を聞いても、人によって評価がバラバラであてにならない……
遠くても病院ランキングで上位の病院に行くべきなのか……
離れて暮らす親族の病院選びで情報がなくて困った……etc.

実は、そうした「病院選びの悩み」は
あることが足りないために起こっています。
これまでの病院選びで語られなかった「あること」とは
いったい何でしょうか。

それは「**正しいデータ**」を**基に病院選びをする**ということです。
メディアで取り上げられる名医情報や恣意的なランキング
主観的なクチコミでは、そもそも判断のベースとなる情報に偏りがあります。

医療の詳しいことは「分からないから」と不安になるのも
医師の言うことに「全部任せればいい」と丸投げしてしまうのも
よくありません。

みなさんが病院選びで不安になるのは「知らないこと」が多いから。
それなら、答えは簡単です。

Prologue

「病院選びの悩み」と

「正しい病院選び」

「知らないこと」「分からないこと」を知ればいいのです。

まずは、病院選びの断片的な知識や情報をいったんリセットしてみましょう。種類の違ったパズルのピースがいくつも混ざったものを

どれだけ拾って並べようとしても、ちゃんとした「絵」は見えてきません。

そして、この本でこれからお話をする

「きちんとしたデータを見て病院を選ぶ」

という新しい習慣を身に付けていけば、みなさんが抱いている

「病院選びの不安や苦勞」は、かなりの割合で軽くなっているはずですよ。

あなたと、あなたの大切な人を守るのは、あなたしかいません。

●この本でできること

- ・あなたとあなたの大切な人を守るための「きちんとしたデータに基づいた病院選び」の仕方が分かる
- ・病院選びをするときに、知らないと損をする「3つの視点」が学べる
- ・正しい病院選びの知識と情報を身に付け、医師に質問できるようになる

はじめに

その病院選びは 「望む結果」につながるのか



8

最初に、私の病院選びの失敗をお話させてください。

ある歯科医院に3年間ぐらいつと虫歯の治療に通っていたことがありました。ふつうは3年も通えば、治療が済むはずですが、どんどん歯が掘られていくばかりで何も良くなりません。

さすがに、これはダメだなと友人に相談して別の歯科医院を紹介してもらって診てもらうと、なんと「新たにかぶせた歯の下に虫歯があつて膿もたまっている。薬も根っこまで入っていない」という状態が発覚。

「虫歯だから近所の病院でいいや」と、適当に選んだのが、そもそもの失敗。根本的な治療がまったくできていませんでした。

ここで大事なことは、**多くの場合治療を受けている本人は「この病院の治療方針や技術が自分がほんとうに望んでいるものに叶うのか」ということが分からない**ということ。

他の病院の診察や治療を受けて、初めてそれまでの病院のレベルが分かるということもあります。

私のように、たとえばX線で歯の根っこの先端部分に「歯根のう胞」が見つかった場合、歯を削り根管治療を行うだけでなく、高い歯で埋めたり、インプラントをしましょうという流れまでを「自然に」行おうとする歯科医師もいます。

それはそれで必要な場合もあると思いますが、患者側がどこまで必然性を理解できているかという疑問。本来なら治療と並行して、それ以上に疾患が進行しないように予防法も教えていくというのも医師の仕事でしょう。

はじめに

9

歯の治療だから病院選びの「失敗談」で、まだ済んでいるかもしれないが、これが「がん」などの重い疾患だったらそうはいきません（歯根のう胞なども人によっては重篤な症状になるケースもあるのできちんとした治療が必要ですよ）。

がんの治療を重ねステージが進んでしまってから「やっぱり治療方法が間違っていました」ということになったら取り返しがつかないからです。

基本的に私たちは、病院で医師から「こうしましょう」と示された治療方針を信じて治療を受けます。なかには、あまり患者に説明をせずに、つぎつぎと検査や手術の指示を出していく医師もいます。

その時点ではもう「日時をどうするか」「それまでに何をしなければならぬか」という実務的な判断で頭の中がいっぱいになり「そもそも、この病院で治療や手術を受けることがほんとうに自分に合っているのか」ということを考える余地はいろんな意味で残されていないことがほとんどかもしれません。

こんなケースもありました。

腰と膝のどちらも具合が悪くなった83歳の患者さんが、自宅近くのクリニックで外来受診したところ、そのクリニックの医師の出身医局であるS病院を紹介され、そこで「人工膝関節置換術（変形・損傷した関節を人工膝関節に入れ替える）での手術をしたほうがいい」と診断されたのです。

ご承知だと思いますが、高齢者になると入院や手術という行為そのものにも合併症などのリスクが高まります。

もちろん、現在は医療技術やリハビリの方法も進化しているため、昔のように「高齢者の手術＝寝たきり」というような認識は当てはまりませんが、それでも本人も家族も心配なものには変わりありません。

詳しく病院のデータを調べてみると、紹介されたS病院では「膝関節症（変形性を含む）」の疾患では、ほとんどが「人工膝関節置換術」の手術を行って、保存療法はほぼゼロ。

つまり、この病院を紹介された「膝関節症」疾患の患者さんは、ほぼ自動的

に手術を受けることになるわけです。それまでも趣味やスポーツなど意欲的に活動されてきた83歳の患者さんとしては、できるだけ今ままでおりの生活を送りたいというのが強い希望でした。

そこで、手術が避けられないS病院ではなく他の病院での保存療法を選び、可動域訓練やプールでの筋力訓練などのリハビリテーションによって1カ月で日常生活に復帰。その後、娘さん夫婦が住まれているイギリスへの渡航もできるまでになりました。

仮定の話にはなりますが、もしも、紹介されたままS病院での手術を受けていたら、このように短期間で海外に行けるまで回復できていたかどうかは分からないでしょう。

このケースのように、紹介された病院で手術を受けることが「自然な流れ」のようになっていても、それがほんとうに「望んでいる結果」につながるのかわるか。

病院選びをするときに、本来なら、そういったことまで検討できたほうがいいはずですが。

大切な人のために 「データで病院を選ぶ」 という考え方



患者さんがみんな、特に何も心配しなくても「望んでいる結果」を手に入れられるのなら、病院選びで悩むことも苦しむこともないはずですが。

しかし、現実には、病院の治療方針が合わなかったり、納得できなかったり、技術や受け入れ態勢に不安や不満を感じていたりといった、さまざまな理由で疾患と向き合う以前に病院選びで悩んでいる人が多いのも事実。

この本の冒頭でも出てきましたが、そうした患者さんと病院の間に横たわる病院選びのギャップは、これまで「基準となるモノサシ」がなかったことも大きく要因しています。

A病院とB病院のどちらが自分にとっていい病院なのかを比較しようにも、どちらがどんな疾患を多く扱っていて、その実績はどうなのかを測ることができない。その「モノサシ」こそが、この本でお話しをする「データで病院を選ぶ」というものです。

現在の医療は「根拠（エビデンス）」に基づいた医療（可能な限り多くの臨床データに基づく、統計学的に有意な医学的知見を用いる医療）が一般化されていますが、そうであるならば、病院選びにもそれなりの根拠が欲しくなります。

そこで、2007年から国（厚生労働省）によって公開されるようになった「DPC」と呼ばれる**診断群分類包括評価**（Diagnosis Procedure Combinationの略。Diagnosis「診断」とProcedure「手術を含む医学的処置」のCombination「組み合わせ」）を用いて患者さんを分類する方法）のデータを用いて、各病院毎の客観的なデータから自分の望む結果をもたらしてくれるような病院を選ぶために、私たちがつくったのが『リーズンホワイ』という病院選び

のためのデータシステムです。

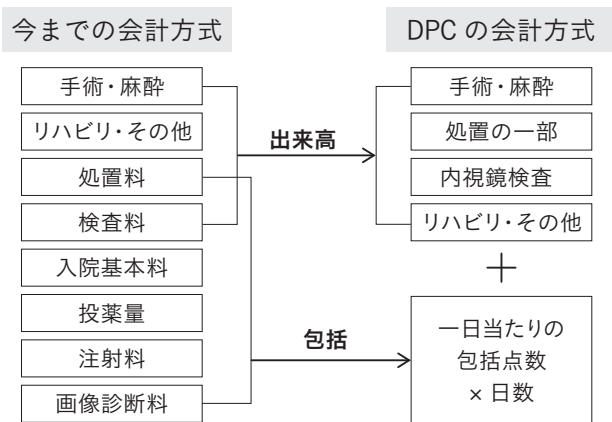
リーズンホワイは、インターネットから検索ひとつでアクセスでき、全国どこからでも「質の高い医療サービス」を探し出すことができます。

巻末に簡単な使い方も掲載しました。「家族や大切な人のために使ってみたい」という思いになった方は、ぜひご覧ください。

「DPC（診断群分類包括評価）」によるデータと聞くと難しそうなお印象を受けますが、要は国が「医療の見える化」を進めましょうというこ

はじめに

「医療の見える化」の基になる支払いのしくみ



とです。

これまで外からは分からなかった各病院の患者さんの診療内容が把握できるようになり、**DPCという共通のモノサシによって、病院ごとの比較分析ができる**ようになったもの。

名医がいるから、評判だからというような主観的なモノサシではない「その病院の診療データ（診断群別症例数、手術の有無、24時間以内死亡数、占有ベッド数、平均入院日数など）」を基にして、病院の実力を測るのです。

たとえば、みなさんには親やパートナー、兄弟、子ども、あるいは仲間といった大切な人の存在があると思います。

そういった大切な誰かのために、ほんとうに「望む結果」をもたらしてくれる病院はどこなのかを選ぶことは、とても意味のあること。病院選びのためのシステムに『リーズンホワイ』と名付けた本意も「一人ひとりの存在する意味」を問いかけたいというところにありました。

医師も病院も、そして大切な人のために病院選びをする人も、みんなが「そ

こに存在する意味＝リーズンホワイ」を考えることで、もっと自分にできることと真剣に向き合えるはず。そうなることで医療を取り巻く環境、ひいては世の中が良くなればという想いがあるのです。

「きちんとしたデータに基づいた病院選び」ができるというのがこの本のテーマですが、その根底にあるのは「大切な人のために力になりたい」「ほんとうに喜んでもらいたい」という、私たちみんなが持っている「より良いもの」へと向かおうとする純粋な意思。

それがあるからこそ、主観的なクチコミや恣意的なランキングを伝えるよりも、より間違いの少ない「客観的なデータ」を伝えたいと思うのです。

それでは早速、あなたとあなたの大切な人を守るための病院選びをするために、覚えておきたいこと、やるべきことを一緒に確認していきましょう。

2014年3月

はじめに

その病院選びは「望む結果」につながるのか 8
大切な人のために「データで病院を選ぶ」という考え方 13

第1章

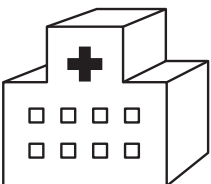
いい病院選びのために 知っておくこと

病院選びの4つのフローを知る 24
同じ疾患でも得意な病院と不得意な病院がある 27
病院の技術レベルは患者には測れないのか 30

第2章

間違いだらけの 病院選び

為替と医療の意外な共通点 34
正しい病院選びが医療の将来につながる 37
正しいデータを知ることのできる医師を知ることができる 40
自由な病院選びが患者を苦しめる!?!? 48
「念のため検査しましょう」は、いい病院? 51
紹介されるままの病院でほんとうにいいのか 54
偏ったクチコミしか出てこないときは注意 59
クチコミとは上手に付き合う 63
病院ランキングを鵜呑みにするな 67
ランキングは多面的にみる 69
入ると致命的な病院がある!?! 75



第3章

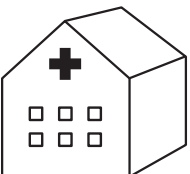
病院選びに必要な データ環境が整ってきた

- 国も本気で医療費をコントロールし始めた
データが公開されることの大きな意味 78
- DPCで医療費の支払いはどう変わる？ 82
- データで見える化されたDPC導入病院の患者メリット
最新治療法より診療ガイドラインを知っておく 85
- 有名病院以外にも良い病院が見つけれられる 93
- 自分でも最低限の「がん予防法」を知っておく 96
- 98

第4章

ほんとうに頼れる病院は こうして選ぶ

- 病院選びに必要な3つの視点 102
- 「こんなときどうする？」
人間ドックで病気が見つかったときの病院選び
軸がブレていない病院をデータから探す 105
- 自分が何を重視したいのか明確にしておく 111
- 良い病院は診療科の垣根が低い 113
- 116
- 高齢者特有の問題に適応した病院かどうかを選ぶ
専門看護師のいる病院かどうかを選ぶ 119
- 病院選びに影響してくる医局問題 122
- 124
- 「こんなときどうする？」
都市部の大病院から地元に移るときの病院選び
病院選びで失敗しないための医師とのやりとり
きちんと説明してくれる医師の見分け方 128
- セカンドオピニオンはほんとうに機能するのか 131
- 135
- ドクターショッピングをする人の心理 139
- 142
- こんなとき『リーズンホワイ』を思い出してください 145



第5章

これからの医療と社会を 良くするために

なぜ若い医師が疲弊していくのか 148

日本の医療問題の本質とは何か 151

病院がベンチャーを育てる必要性 156

知られざるアメリカのロビー活動 158

おわりに

部分最適ではなく全体最適へ 163

これからの社会を良いものにするために 167

理想的な病院の選び方 170

用語の解説 174

